## 平成23年3月30日:平成22年度第五回技術管理委員会議題

各技術とも、設定した目標をすべて達成した。 5機種を省エネ型汚泥濃縮機として承認する。

結果

平成23年3月30日: 平成22年度第五回技術管理委員会議題 〇新機器評価終了時の評価	
テーマ名	下水汚泥の省エネルギー濃縮技術(省エネ型汚泥濃縮機)の性能確認
形態	新機器採用に関する評価
所管部署	計画調整部 技術開発課
	(株)石垣、(株)クボタ、(株)神鋼環境ソリューション、月島機械(株)、巴工業(株)・メタウォーター(株) (五十音順)
期間	平成22年10月から平成23年3月まで
●・概要図	[目的] 今後の汚泥濃縮設備の整備にあたり、新機器(省エネ型汚泥濃縮機)の当局の汚泥に対する適合性を確認する。 [機種] ○差速回転型スクリュー濃縮機 (株力ボタ (株力ボタ ) (大ルト型濃縮機 (水ルトラ温濃縮機 ) (ベルトラ温濃縮機 ) (ベルトラ温濃縮機 ) (ベルトラ温濃縮機 ) (ベルトラ温濃縮機 ) 円島機械(株) (大ルト型濃縮機 ) (ベルトラー(株) と工業(株・メタウォーター(株) ) (株)
供試汚泥 の条件	・供給汚泥は、当局水再生センターから採取した混合汚泥及び余剰汚泥とする。
目標	[濃縮機の性能に関わる条件] ・濃縮汚泥の平均濃度は4.0%以上とし、固形物回収率は95%以上とする。 ・使用する凝集剤は高分子凝集剤とし、添加率は平均で0.4%以下とする。 ・省エネの条件として、従来の遠心型より動力を7割以上削減する。